

2017年8月18日

いちき串木野市市議会  
議長 中里 純人 様

いちき串木野市湊町2丁目180番地  
江藤 卓朗

### 川内原発の『40年超運転』に反対する意見書採択を求める陳情書

一年前の7月、現三反園訓知事は脱原発を掲げて、川内原発の再稼働に知事同意をし、更には、「60年稼働も可」としていた前伊藤祐一郎知事を約8万票の差をつけて当選されました。多くの市民の本音は、「避難計画の実効性もない、川内原発の再稼働には反対」「60年稼働にも反対」だったのだと思います。いちき串木野市内で集めた「市民の生命を守る避難計画がない中での川内原発再稼働に反対する緊急署名(2014年)」でも15,671筆(市民の過半数)を数えていました。

今回の陳情は、『川内原発の40年超運転』に関してです。三反園知事が、7月26日の定例記者会見で、「国の考え方を聞いて判断する」との40年超えの可能性がある発言がありました。そのことについてです。

川内原発1号機は、運転開始から7月で33年。2号機は11月で32年を経過します。福島第一原発事故後に改正された原子炉等規制法は、原発の運転期間を原則40年と規定していますが、例外として、原子力規制委員会の延長審査に合格すれば最長20年の延長が可能となります。つまり、60年の運転がされる事になります。その運転前の建設期間に5年～10年かかったとすると、相当長い間、鉄筋コンクリートや、機材が劣化しながら使用されて来ていることになります。以前、「鋼鉄製の圧力容器でも中性子が長年当たり、劣化し割れやすくなる」と発表した東大の井野教授もおられました。老朽化した原発は、当然危険度が高まります。

原発がある事に加え、「40年超(60年)運転」となると、不安が、市民の中に更に増幅して来ます。世界の趨勢に合わせて、原発に代わる自然・再生可能エネルギーへの転換を急いでいくべきだと思います。老朽化した原発は、当然危険度が高まる事を抑えたうえで、下記の意見書を決議されるように、陳情いたします。

#### 記

- 1、脱原発を掲げ、川内原発の延長運転をすることなく、再生可能エネルギーへの転換を急ぐべきである。

以上